

文樂興行



二月十一日 曜 初日

この名作に好箇の役揃ひ

すがはらでんじゆてならひがまみ

菅原傳授手習鑑 車先の段より 寺子屋まで

古朝大夫の寺子屋と若手連熱演の華々しさ

せつしうがつほうがつじ

撮込合邦辻 合邦内の段

津太夫独自の藝域これこそ懸遣せぬ絶品

おなつこぶきれんりまつ

清十郎壽連理の松 湊町の段 住吉濱邊の段

土佐太夫の湊町若手連掛合の住吉濱邊を

初日各等割引値段

初日と二日目 二時開幕 毎三時開幕

一等席 前賣切符發賣 居いたし候

五日前よりお場席がとれますお電話南四七壹壹番

文樂座の御宴會
御一名金五円也 (壹等椅子席)
食事・寫眞・番付つき廿人以上

初日	二日	三日	通	普	料	金
一等椅子	二等席	三等席	一等椅子	二等席	三等席	一等座席
金二	金一	金五	金三	金一	金八	金三
円	円	円	円	円	円	円
五十	五十	五十	五十	五十	五十	五十
銭	銭	銭	銭	銭	銭	銭

菅原傳授手習鑑

佐太村の段は櫻丸切腹の段ともいひ「菅原傳授手習鑑」の三段目の切て、かの寺子屋の段の前段に當る

▼……佐太村に住む農夫四郎五郎改め白太夫は大恩ある菅相丞の言葉に従ひ、七

▼……今晚の放送はその後半の部分で、梅王と松王が兄弟喧嘩の末、白太夫に追出されて歸つて行つたところからである

▼……出演の鑊太夫は東京の出身で譜太夫の教へを受けたが、後、伊達太夫（今

義太夫

櫻丸の切腹

淨るり 竹本鑊太夫

三味線 豊澤新左衛門

十の賀の祝ひ、舎人に出仕してゐるわが子の梅王、松王、櫻丸の三つ子三夫婦を招待したが、櫻丸は自分の過ちから菅相丞が流罪になつたことを悔み、その申譯に切腹して果てるといふ父子夫婦の死別を描いた淨るりである

の土佐太夫に預けられ、近松座を経て交樂座に入つた、現在同座の重要な地位を占めてゐる、合三味線の豊澤新左衛門は近松座で故春子太夫の合三味を勤め、文樂に入つて一時古靱太夫の合三味線を勤めた老練である

佐太村の段



義太夫

寺子屋

浄るり 竹本大隅太夫
三味線 鶴澤道八

【後ハ・ニ〇】寺子屋の段は「菅原傳授手習鑑」の四段目なので「菅四」とも呼び難曲の一つに数へられてゐる、武部源藏は芦生の里に寺子屋を営みつゝ大恩のある菅公のお世継菅秀才を我子の如くにして圍つてゐたが、これがいつしか時平の耳に入り源藏は庄屋に

呼ばれて、その首を討つて渡せとの斃命、多くの手習子のうち身替りは、あれかこれかと考へながら戻つて見ると今日ひとり目鼻だちすぐれた子供が入門してゐたので「心を鬼にして身替りにその子の首を討つた、禊祓の役は松王丸、病にまぎらして涙に咽ぶも道理、これぞ松王丸の一子で女房千代と謀り身替りに立てたのであつたといふ筋、最後のイロハ送りのサワリは有名である、今晚はハかゝるところへ春藤女番……から最後までを語る。

攝州合邦汗の懸合圖

